

ウロギネコロジーセンター

ごあいさつ

当ウロギネコロジーセンターは2008年4月に設立して以来、女性の骨盤臓器脱や頻尿、尿失禁、間質性膀胱炎等の治療を行っており、累計約1,700例以上の手術症例数を持つ九州トップクラスのセンターで、九州各地や中国地方、沖縄県等遠方からも受診して頂いております。

本邦では珍しく、泌尿器科専門医と婦人科専門医で混成チームを作っております。各科の障壁を取り払い、各々の得意とする診療能力を結集し、質の高い治療を行っております。

さらに専任の医師クラークによる予約、受診案内、専任理学療法士による骨盤底筋体操の指導など患者さんに寄り添うサービスを提供しております。骨盤臓器脱、直腸脱、難治性の頻尿、尿失禁などでお困りでしたら、お気軽にご相談ください。

診療内容

骨盤臓器脱

骨盤底筋のゆるみにより子宮や膀胱、直腸などが膈壁を介して脱出する状態です。症状が進行すると排尿困難や排便困難、さらに歩行困難など非常に辛い状態になります。当院ではセンター設立以来、累計約1,000例の手術を行っております。骨盤臓器脱の手術は様々な種類がありますが、当センターではあらゆる手術に対応できる体制を整えております。患者さんの状態や状況に合わせて最適な治療法を提供する事が出来ます。

特に腹腔鏡を用いたメッシュ手術は膈壁を傷つけず、術後の痛みも少なく、再発率も非常に少ないすぐれた手術です。欧米ではすでに50-60歳代患者へのゴールドスタンダードと言われております。本邦では2014年から保険適応となり、今後普及していくことが予想されます。しかし、腹腔鏡を用いたメッシュ手術は高い技術を要し、どの医療機関でも可能という手術ではありません。当センターでは既に累計約300例経験しており、非常に良好な成績を収めております。

頻尿・間質性膀胱炎

麻酔下膀胱水圧拡張術で難治性の頻尿や間質性膀胱炎の診断と治療を行っております。無効例に対してはボトックス膀胱壁注入療法を行っております。

さらに尿失禁を伴う過活動膀胱に対しては本年9月から仙骨神経刺激療法が保険適応となるため、当センターでも導入する体制を整えております。

間質性膀胱炎に対しては、膀胱壁電気凝固やDMSO膀胱注入療法なども行っております。他院で治療困難例の患者さんにも治療の選択肢を提示させていただけると思います。

尿失禁

咳や突然力を入れたときに尿が漏れる状態を腹圧性尿失禁と呼びます。腹圧性尿失禁は尿道の過可動が原因となります。この動きすぎる尿道を支える手術(TVTやTOT)は累計約460例行っており、非常に良好な成績を収めております。

地域別来院患者数(平成21年4月～平成29年3月)

地域	患者数	地域	患者数	地域	患者数
福岡県北九州市内	7,819	鹿児島県	135	徳島県	1
福岡県北九州市外	4,289	沖縄県	12	香川県	10
佐賀県	160	山口県	1,080	兵庫県	5
大分県	705	広島県	67	大阪府	2
長崎県	266	島根県	4	千葉県	1
熊本県	130	岡山県	8	埼玉県	1
宮崎県	203	愛媛県	17	栃木県	7
合 計					14,922

術式別手術症例数(平成21年1月～平成28年12月)

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	計
T V M (経膈的骨盤臓器脱手術)	124	105	119	127	89	48	32	69	713
L S C (腹腔鏡下骨盤臓器脱手術)	0	0	0	0	0	54	92	94	240
腹腔鏡下尿失禁手術	0	0	0	0	24	13	0	2	39
TVTとTOT (腹圧性尿失禁の手術)	45	51	72	53	88	47	44	57	457
水圧拡張術	9	36	18	18	23	23	18	26	171
その他	4	12	3	4	7	15	15	34	94
合 計	182	204	212	202	231	200	201	282	1,714

〈ウロギネコロジーセンター医師〉



センター長
野村 昌良(非常勤)
のむら まさよし
平成5年卒



部長(産婦人科)
藤本 英典
ふじもと ひでのり
平成7年卒



副部長(泌尿器科)
新井 隆司
あらい たかし
平成11年卒



泌尿器科医師
小田 瑞
おだ みずき
平成15年卒